

農地を工場にどんどん変えていった結果、経	がある。実際にアルゼンチンなどの国でも、	ないのでその対策がしづらくなるといふ欠点	まうと、農作物の値段が上がリ、農地に戻せ	むやみに農地を住宅や工場などに変えてし	寂しいところである。	同時に、周囲から自然が減っていくのは少し	るといふのはうれしいことであるが、それと	家が建っている。自分たちの町で人口が増え	だ。今まで田んぼがあった場所には、軒並み	よりも、田んぼの数が減っているといふこと	を散策しているとその理由が分かった。以前	とも少なくなってきた。疑問に思い、町の中	かし、最近になって、それらの生物を見るこ	夜にはコオロギたちの鳴き声も聞こえる。し	おり、田んぼを見ればトンボが飛んでいる。	会える。用水路を見ればカエルやザリガニが	私の家の周りでは、さまざまな生き物に出	磯松中学校	三年	齋藤	京梧	農地が減っていることについて
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-------	----	----	----	----------------

濟破綻を起こしているという事例もある。また、地域から農地が消えるということとは、その地域の特色を失うということである。東広島市で見ても、牡蠣、じゃがいも、西条柿など、とても特徴的なものばかりで、これらを失ってしまうと、東広島市の魅力を大きく失ってしまうといえるであろう。

また、田んぼなどの農地がなくなっていくということでは、やはり環境破壊をしているという点だろう。田んぼがあるところだけでそこに植物が生えているところというだけでは、少なくない。田んぼにいる生物をみると、メダカやザリガニ、ゲンゴロウにトンボなどの、多種多様な生物が生息しているのが分かる。また、先ほど挙げたメダカのように、田んぼがないと生息地がなくなってしまうような生物も多くいるはずだ。その生物も減ってしまふ、あるいはなくなってしまうと、さらなる環境の破壊も招いてしまう可能性がある。

あるだろう。これらのように、農地が減るだけで起きる影響は大きいのだが、そもそもなぜ農地が減っているのか、東広島市では増える人口のため、農地転用をしているという点もあるとは思うが、一番の理由は農業をする人が減っているということだろう。自分の祖父母は山口県に住んでいて、もともと農家といえる規模ではないが田んぼを持って稲を育てていた。しかし、その農地を継ぐ人がいないことや、本人たちの老いによる体力の低下などの理由が重なったことで、今では土地を売り、米をつくることをやめてしまった。これと同じようなことが、日本の各地でも起こっている。農地を減らさないようにするためにも、国が何らかの対策をし、農家たちの賃金を上げるなどの対策を行っていくことが重要だ。自分にとって、自然に見られるような生物が見られなくなるといえるのがいやなので、農地をどんどん減らしていくのはどうなのか

と思うときがある。人口が増えている
今の東広島市だからこそ、農業と人々が共生
していけるような環境を整えるのが大事にな
っていくと考える。